

『村の肖像』展IVにいたるまでの経緯と今後

原田健一（新潟大学）

私が金山町に行くことになったのは、2008年4月に新潟大学人文学部に赴任し、新潟の各地域にあるさまざまな写真や動画を発掘・デジタル化し、見ることができるようにする地域映像アーカイブ・プロジェクトを始めたことによる。同僚であった船城俊太郎先生が定年退官するにあたって、金山町上中井にある実家にも古い写真があるから見に来ますかと声をかけてくれた。それを見に行ったのは、2012年11月13日であった。その日は、船城先生の家で何枚かの湿板写真を拝見した後、自分の親戚で写真を撮り続けている人がいるからといって角田勝之助さんを紹介されたのだった。私は、角田さんの写真を見て、1つの村で60年にわたって撮り続けられたものとして貴重な記録であるだけでなく、写真として非常に優れたものであることにすぐに感じた。次に金山町に行った2013年9月6日の時には、新潟大学地域映像アーカイブ研究センターで11月から12月にかけて「2013にいがた地域映像アーカイブ・クインテット」と題して新潟市内の新潟日報メディアシップなど5箇所で行った上映展示イベントの一環として、私は旭町学術資料展示館で「村の肖像展」として角田さんの写真展示をすることにしたいと考えていた。そこで2013年4月より助教として赴任した写真家でもある榎本千賀子さんに声をかけ一緒に角田宅にうかがうことにした。榎本さんは角田写真を見てその素晴らしさに気づき、キュレーションを引き受けてくれることになった。榎本さんと金山町との長いつきあいの始まりであった。また、砂丘館の大倉宏館長は12月に旭町学術資料展示館での「村の肖像展」を見て、是非とも砂丘館でもやりたいと声をかけてくれた。そこで、2014年9月に「村の肖像Ⅰ・展」を砂丘館で、「村の肖像Ⅱ・展」を旭町学術資料展示館で開催した。また、翌2015年には、榎本さんと相談し大日方欣一さんにキュレーションをしてもらい、8月に「村の肖像展Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を金山町自然教育村会館で、10月に「村の肖像展Ⅰ・Ⅱ」を砂丘館で、「村の肖像展Ⅲ」を旭町学術資料展示館で行った。

2015年10月に展覧会が終わったあと、大倉館長からは「村の肖像展」はこれで一区切りにはしたいという話があった。私は角田さんの写真がこれから1970年代以降のカラー写真になることや、2016年3月に榎本さんが助教を退官後、金山町に住んでフィールドワークをすることになっていたのも、カラー写真による角田・榎本二人展を「村の肖像展Ⅳ」としてやってみてみてはどうかと話をした。大倉館長は、それなら2017年に榎本さんの写真も出そろった頃にやりましようとなった。2015年12月頃の話である。

ところで、榎本さんは2016年5月より金山町大志に住み、自分の写真を撮ることや角田さんの写真の調査をするだけでなく、10月から「村の肖像」プロジェクトとして金山町の各村々の映像資料調査を始めた。これは、全国でも初めてといってもいいような村の個々の集落にある写真資料の調査で、この調査でいろいろな新しい発見がもたらされた。その内容は、2017年2月に刊行される『地域と映像アーカイブ—記憶とデジタル化をめぐる実践と研究（仮題）』（学文社）の榎本さんの論文「『村の肖像』制作の現場から：福島県大沼郡金山町における映像アーカイブ構築」に詳しい。この調査が非常に重要なのは、それまで民俗学や村落社会学で集落の文化の多様性が言われてきたことを、映像を通して、実証したことである。村の人びとにとっては、自分たちの写真は日々の生活の営みのなかで生み出されたものにすぎず、それほど大きな社会的な意味をもつものとは理解していないかもしれない。しかし、その何気ない映像は人びとの日常生活の奥深くまで普及し、私たちの心の底にまで到達し、その世界の微妙な贅を写し出していたのだった。それは、本当は驚くべきことなのだ。榎本さんは村の中を走り回り、こうした映像を見つけ出すことによって、人びとに大切な記憶を思い起こさせたとと思う。村の人びとは、あらためて自分たちのやってきたことや日々の思いを振り返り、自分たちを支えてきた父や母、祖父や祖母、あるいは助けてくれた仲間たちのことを懐かしく思い、その時間の大切さを感じたり、あるいは、今後の村のあり方、未来に何を残すべきかを考えるきっかけとなるなど、いろいろなことを考える貴重な時間になったのではないかと思う。

今回の展示、並びにこの小冊子は、ストレンジャーとして外の視線で金山町の現在を優しく見つめた榎本さんのカラーの金山町から始まり、1990年代から1970年代へと玉梨を舞台に村に住む角田さんが生活に根ざした視線で人びとを写したものを通し、さらに、今回発掘された写真から、過去へ1930年代まで、集落ごとの多様な生活、文化、社会のありようをゆっくりとたどれるようにしたいと考えた。キュレーションは、大日方さん、あるいは原田の助言を得るだけでなく、金山町の人びとの記憶や思いを受け取りながら、榎本さんが行った。

この小冊子に記録されたものは金山町の人びとにとって大切な記憶の時間であろうが、それだけでなく、多くのこの世界に存在する村々の世界、そこでの人びとの思いを知る手がかりになるのではないかと考えている。

金山町 MAP

金山町は、福島県・新潟県の県境に位置する、人口約2,100人の町である。

- 📍 上田 Uwada.....p.16
- 📍 大志 Oship.3, 4, 6, 11, 15
- 📍 川口 Kawaguchi.....p.5,6, 11-14
- 📍 越川 Kosugawap.6
- 📍 三条 Sanjop.18
- 📍 玉梨 Tamanashi表紙・裏表紙, p.7-10, 12
- 📍 中川 Nakagawa.....p.14
- 📍 沼沢 Numazawa.....p.15
- 📍 本名 Honna.....p.6
- 📍 水沼 Mizunuma.....p.15
- 📍 横田 Yokota.....p.17
-
- 📍 南会津町・会津田島 Aizu-Tajima, Minami-Aizu Town....p.12

